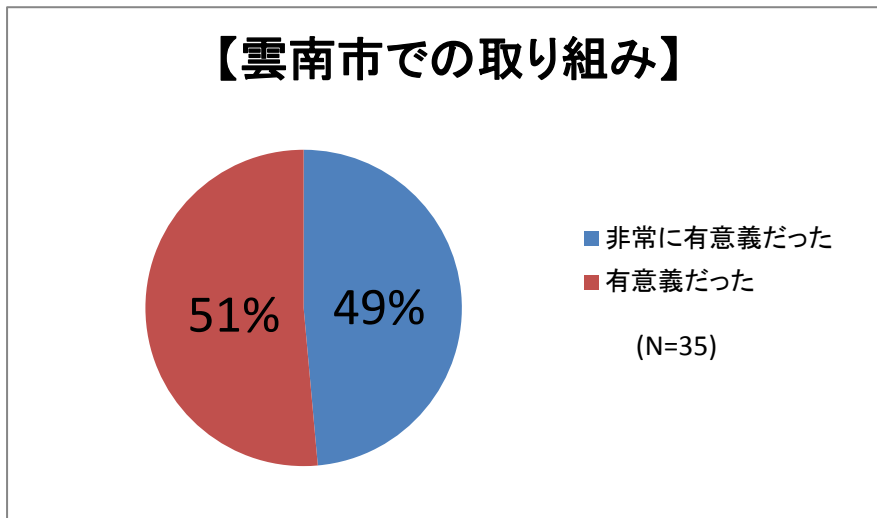


「小さな拠点づくり」に向けたテーマ別現地事例・課題解決研修『生活交通の確保』

◎研修日程 12月8日(木) 9:15~15:30 中野交流センター

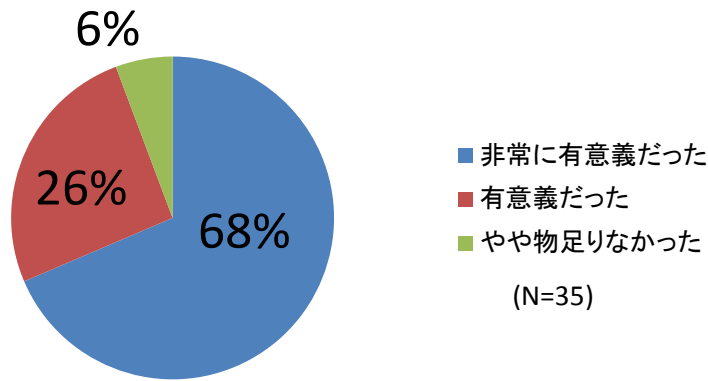
受講者 アンケート結果 回答者35名
(出席者51名、回答率69%)



※先頭の番号は評価:(1)非常に有意義だった(2)有意義だった(3)やや物足りなかった(4)物足りなかった

- ・(1)実際に取り組みに関わっている方からお話を聞くことができ、参考になった。
- ・(1)浜田市の50年先を实践している。とても参考になった。
- ・(2)市がこれだけのことをしてくれたら小さな組織としては楽な気がしました。
- ・(2)現在コミュニティーバス(デマンド方式)を地元タクシー業者に委託して運行中。目的地の設定について検討中なので参考となった。また個別に聞いてみたい。
- ・(2)事例を比較できたのがとてもよかったです。
- ・(2)全市的な取り組み、参考になりました。地域自主組織のベースがあつての自助ができるかと納得しました。
- ・(2)やや理解できない事例もありましたが大変よかったですと思います。
- ・(2)現在実質的な局面を迎えているなか、高齢者ドライバーの事故、免許返納等、非常に難しい立場にいる交通弱者。いい勉強になりました。
- ・(1)とてもわかりやすい説明・資料でいろいろなことを知ることができました。
- ・(2)波多、中野地区での取り組みは地域に密着していてうらやましく思いました。出羽は恵まれすぎているのでしょうか。
- ・(1)小さな拠点づくりのイメージがよく理解できた。
- ・(2)運行にかかる経費をどのように工面するか？ということが最終的な課題になるのだということを感じた。雲南市役所と自主組織との連携が良いと思う。
- ・(2)実際に笑んがわ市の見学をさせていただき小さな拠点として重要な施設であるということを実感できた。公助から共助へのシフトの大切さを知った。
- ・(1)調査、実態を明らかにしていく手段が参考になった。
- ・(1)市の取り組みから説明して、地区の取り組みを紹介してもらったのでわかりやすかった。説明も丁寧。中山間センターのまとめがコンパクトでよかった。
- ・(2)各地区がそれぞれの想いを持って取り組まれています。それが自分たちの地区でどのように活用できるか。参考になりました。心のよりどころとなる取り組みを考えていきたいと思いました。午前中のまとめは参考になりました。免許証の有無、年代は今後の流れには大きな変化をもたらさずと思いますし、自動運転が解決のひとつとは考えられません。
- ・(1)公民館組織からコミュニティー組織に変わることによって地域の自立につながることを再認識した。

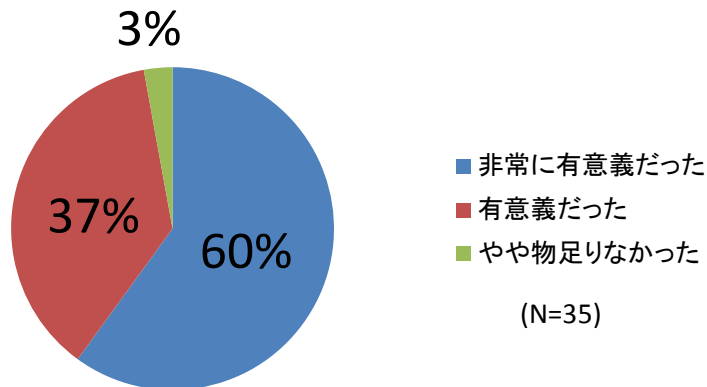
【生活交通の仕組みづくりと課題】



※先頭の番号は評価：(1)非常に有意義だった(2)有意義だった(3)やや物足りなかった(4)物足りなかった

- ・(1)地域と共に交通の仕組みを考える機会が多いので、とても参考になった。
- ・(1)いろいろな事案との組み合わせが重要。地域のやる気を引き出すのが難しい。
- ・(1)今までの疑問も何件か解決したように思いますが、また取り組みを始めるといろいろ出てくるのかなと思います。
- ・(2)コミュニティバスをより利用しやすく(結果的に利用人員を増やす)という視点で検討していくうえで参考になった。
- ・(2)はじめ混乱しそうになりましたが、午後の意見交換あたりで整理できました。生活交通+目的(サロンなど)が大切だということがわかりました。
- ・(1)三次青河の方の発表は分かりやすく、非常に参考になりました。
- ・(1)青河町の発表は特に心に響くものだった。参考としたい(ビジョンづくり)。
- ・(2)利便性の問題、交通弱者として現在どこで生活しているのか、または町村の差(アクセス道)などに地域間格差があると感じました。
- ・(1)取り組みに生かせるいろいろな情報がありました。今後、生活交通の確保に取り組むことを考えている地区もあるので、今回紹介された事例やお話を伝えて、地域の方と一緒に取り組んでいきたいと思います。
- ・(2)生活交通を考えるとどうしても移動ニーズのみを考えがちであるが、活動ニーズを主体に取り組むことの重要さが理解できた。青河もこの理念で事業を始められ、そのための工夫もすばらしい。
- ・(1)交通手段の確保だけでなく、いろいろな支援方法との組み合わせが重要で目的と手段の明確化が必要と思いました。
- ・(3)よくわからなかった。(青河の発表に関して)無償でも法に反するのかわか?
- ・(1)研究センターさんのプレゼン?
- ・(1)生活交通の仕組みを作るうえで必要なニーズ調査について例を交えながら落とし穴について学ぶことができ、本当に求められているものを知るための手がかりとなった。
- ・(1)青河町の取り組みは現実的で、自分の地域の問題解決の大きなヒントをいただいたと思う。
- ・(1)具体的事例紹介、「利用者の視点」の大切さが参考になった。
- ・(1)地方公共路線バス(石見交通)とタクシー事業者との共存共栄方法と高齢者ニーズ(ドアツードア)の分離解消に向けて検討を進めたい。現状のデマンド型は結節点までという中途半端な運用制度は使いづらい。
- ・(1)生活交通の仕組みを細かく教えていただきわかりやすかったです。
- ・(1)交流センターなどの職員を活用する方法、それが実施できる母体と地域活動の充実が一つの鍵だと感じた。
- ・(1)地域づくりと交通の連携の重要さがわかった。
- ・(1)域内交通のありかたについて大変勉強になりました。自分が考えていたより、実現に向けたハードルがさがりました。
- ・(1)担当している浜田市弥栄町地域も将来的に取り組んでいかななくてははいけないと強く感じた。

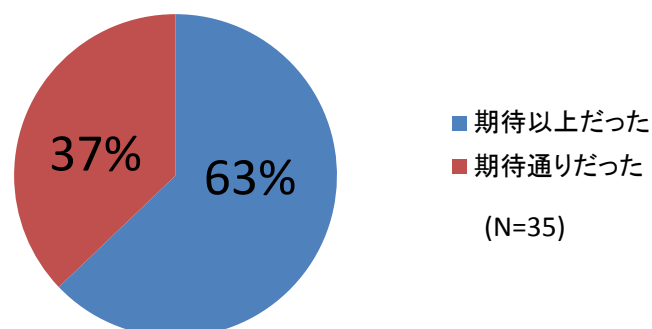
【意見交換】



※先頭の番号は評価:(1)非常に有意義だった(2)有意義だった(3)やや物足りなかった(4)物足りなかった

- ・(1)個々の事業を具体的に聞いてよかった。
- ・(2)現場状況がよくわかった。
- ・(2)司会の方に論点をよく整理していただいたので頭に入りやすかった。
- ・(1)考え方が勉強になった。
- ・(1)具体的な話が聞けた。
- ・(2)参加者からの質問で各地域の取り組み内容が理解できた。多目的で交通を考えておられ参考になる。
- ・(1)地域の目指すところの明確化と、人と人のつながりの大切さを守り継承することが今後の課題になると思います。
- ・(1)疑問に思う点について複数の実務者の方からの意見を聞くことができた。地域のニーズを把握し交通だけに目を向けることなく、複合的に考える必要性を感じた。
- ・(2)交通の問題は地域全体の一環として取り組むこと。地域づくりのなかの一問題としてとらえることが必要。
- ・(1)地域で関わるセンター職員や役員の責任感、義務感によるものが大きいと感じた。行政としてどうお考えになれるか雲南市以外でもお聞きしたいなと思いました。
- ・(1)出席者からの質問への回答を通じて課題を深堀りできた。
- ・(1)詳しく聞いてよかったです。ありがとうございました。
- ・(1)掘り下げて聞いて欲しいテーマへコーディネーターがうまく展開されていて勉強になりました。ディスカッションの方々も貴重なご意見ありがとうございました。
- ・(1)有償・無償問題は奥深い。

【全体】



※先頭の番号は評価：(1)期待以上だった(2)期待どおりだった(3)期待と違っていた

- ・(1)「笑んがわ市」の現地視察もおこなうことができ、期待以上だった。
- ・(1)有償運送、無償運送の話が非常に勉強になりました。
- ・(2)いろいろ聞けたのがよかったです。
- ・(1)本当にいろいろなことがわかった研修でした。
- ・(2)雲南市の交通体系と地域生活交通の説明がわかりやすかった。一方、行政支援(市)が各地域に対してどうなっているか説明があるとより理解が出来たのではと思いました。
- ・(3)→(2)生活交通の仕組みの受益者に関する課題を感じてきたつもり。運営制度に関してのヒントがあるものと期待していた。陸運局に聞いてくれという見解になるとは思っていなかった。「青河地区」が言われたこと、山の尾根で活動しているという言葉ならここに来ずともまずはやってみようということであるのか。ただし、意見交換のときに最終的なところで納得ができた。
- ・(1)他県での取り組み、課題解決の手法、持って生き方がさまざまであることがよくわかりました。
- ・(1)地域内交通を考えると「地域づくり」を組み込んで考えていく必要がわかった。
- ・(1)有償運送に取り組む団体の参加もあればなおよかったと思います。
- ・(1)全体の流れがよかった。狙いが頭に入ってきやすかった。
- ・(1)大変勉強になりました。ありがとうございます。また相談させていただきます。よろしくお願いいたします。

【今後の研修等の希望について】

(1) 現地事例研修の希望先

- ・地域が主体となって行っている輸送の現地視察
- ・有償交通をされている地区。地区外に出た輸送をされている地区。
- ・住民参加起業。
- ・老後のすべての課題に関して、安全で安心して誰もが孤立せず暮せていける地域づくりを連帯意識をもっておこなっているところ。
- ・今日のお話を聞いて、三次市青河に先進地視察に行ってみたいと思いました。
- ・もう一度波多地区です。
- ・大人がメイン対象の地域輸送の事例等をきくことができましたが、子どもも利用できるような、もしくは実際に利用している事例があればきいてみたいです。

(2) 希望するテーマ・分野・内容

- ・若者が多数からんでいる自治組織。「小さな拠点づくり」に関するテーマすべてについて勉強したいが、特に地域産業の振興や農業振興について
- ・農業に関して
- ・高齢社会を迎える今後、弱者としてすべての日常生活に支障が出るのは確実です。そんななかで地域一体となつてたすけあうシステム。有償か、無償か、どの程度までならか、などの内容で。
- ・持続可能な地域づくりに向けての視点と考え方の明確化に向けたポイント、留意点について
- ・中間支援組織における地域と行政のパイプとしての役割についてのノウハウ、地域へのコーディネート手法、ファシリテート手法。
- ・医療機関のない地域での健康維持・健康チェック・病気の早期発見などの手法
- ・制度面(法的)の勉強会(グレーゾーンの解消へ向けて)

【「小さな拠点づくり」に取り組む上での質問や疑問点等】

- ・どうしても地区のなかで特定の人のみが活躍するような形になりがちだと思います。なかなか周知や総意という部分がうまくいきません。どうすればよいか悩み中です。そのような研修などあればいいと思います。
- ・人生第一線を終えて、わが地域に帰ってからの弱者に向けたボランティアが(今まで勤務していたときに習得したライセンスなどを使って)出来る人たちに呼びかける方法。
- ・これまでのテーマ別研修のなかで今回の生活交通の確保が一番悩ましかった。このテーマについては、もう一度研修したいと思いました。
- ・取り組み組織の「法人格」をとるかとらないかのメリットデメリットは？
- ・自主組織の取り組みは担当行政(江津市)の理解がないとできないことがよく感じられた。ぜひとも江津市ならではの自主組織との連携方法を作成し、実践していただきたい。
- ・老老介護ならぬ、老老共助としないための方策は？どうしたら良いの？
- ・潜在的ニーズの把握の仕方として、どのような手法がありますか？たとえばアンケートの内容とか十分に検討しなくてははいけませんよね。
- ・住民が小さな拠点づくりに取り組み自助で進んでいこうとしているとき、役場・市役所・県・国が助けないでカベを作っているように思います。応援体制がこれからできていく様子があるのか知りたいと思いませんか？
- ・介護保険制度の見直し等にもなう「新たな総合支援事業」展開に向けての福祉関係の連携などの仕組みづくりなど。